

「憩いの場」西舞鶴にも

舞鶴市シルバー人材センターは1日から月1回、同市南田辺の西公民館で地域住民らが集う「憩いの場」を開く。センターに寄せられる業務の受託件数は増加傾向にあり、東舞鶴地区のみで行っていた、非会員も含めた交流の場を西舞鶴地区でも設け、センターの認知度向上や会員数の拡大につなげる。

市シルバー人材センター、きょうから

センターは野菜販売市や喫茶を定期的に開き、会員や非会員が交流できる場を設けているが、開催地は主に事務所のある東舞鶴で、西舞鶴の住民から「交通の便が悪く参加しにくい」との声もあった。また西舞鶴の会員数は全体の36%と少ないため、同地区で交流の場を作り、活動をPRしようとして企画した。

センターの会員数は女性の増加や団塊世代の退職の影響で徐々に増え、9月30日現在で819人。断続的に過去最多を更新する一方、定年後の働き口が増え、60代の登録者が減ったため平均年齢が上昇。草刈りや清掃などの仕事の受注は、昨年度で4644件と10年前に比べて約20%増加しており、人材の確保が必要となっている。

開催日にはお茶を飲みながら職員と参加者が語り合い、東舞鶴の催しで好評なハンドケアも受けられる。活動に関する質問も受け付ける。午前10時～午後4時（正午～午後1時は休憩）。11月1日と12月2日にも行い、定期開催も検討する。

認知度向上、会員増目指す

センター総務課の上羽小百合さんは「センターを身近に感じてもらい、会員の増加につながれば」と期待する。（大西成美）



東舞鶴地区の交流の場で行われているハンドケア。シルバー人材センターの活動をPRする場にもなっている。（舞鶴市溝尻）



新施設は同市と宮津市、伊根町でつくる一部事務組合「宮津与謝環境組合」が整備し、市は現在、不燃ごみの「プラスチック類」の「

却炉撤去後少なくとも10年は解散しない方針

の一部が27日午前9時20分ごろに剥がれて落下した、と発表した。

東側3階付近の磁器質タイルが約1・5平方メートルにわたって剥がれ落